

地方創生に関する特別委員会会議記録（概要）

平成28年5月9日（月）

開 会（午前10時0分）

（委員長あいさつ）

（副委員長あいさつ）

（委員あいさつ）

【議 事】

（1）COOL JAPAN FOREST構想の概要について

【概要説明】

市川経営企画
課主幹

本日の説明につきましては、すでにお配りさせていただいた冊子に沿って進めさせていただきます。説明時間は、概ね30分の予定ですので、よろしくお願いたします。

はじめに、表紙を1枚めくっていただき、目次をご覧ください。この構想の冊子につきましては、はじめに構想の大まかな姿を理解していただくため、1ページ目に趣旨・推進方針を掲載し、次に、構想の全体像とマイルストーンをお示ししております。5ページ目からが、構想の本体であるCOOL JAPAN FOREST構想の項目です。9ページからは、構想を進めることに至った背景・経緯、13ページには構想エリアの定義、14ページから25ページに渡って、所沢市と株式会社KADOKA

WAが実施していく具体的なアクションプランを掲載しております。

ここまでの構想の内容を示した項目でございまして26ページからのところざわサクラタウンの項目以降は、構想に関連した情報等の項目になります。主な内容としては、施設の機能や経済波及効果、将来的な地域連携体制の検討に関するものとなっております。26ページ、ところざわサクラタウンは拠点施設の機能等に関する項目、34ページ、構想を支える仕組みの検討は、将来的に検討していくこととなる地域との繋がりを構築する仕組みの提案などに関するものとなっております。36ページには経済波及効果を掲載し、38ページには、みどり・文化・産業が調和したまちへの飛翔と題して、構想が目指していくまちの姿のイメージを掲載し、そのイメージを図案で示したものを40、41ページの見開きで掲載いたしました。

本日は、お時間も限られているところでございますので、構想のマイルストーンや、構想本体の説明を主体に説明を進めたいと考えております。まず、1ページをご覧ください。（1）構想の趣旨でございますが、1行目でございますとおり、COOL JAPAN FOREST構想は、所沢市と株式会社KADOKAWAが共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化と自然が共生した、誰もが住んでみたい、訪れてみたい、地域づくりを進める構想でございます。

具体的には、株式会社KADOKAWAが建設する施設、（仮称）ところざわサクラタウンからのクールジャパンの発信と、重点推進エリアCO

OL JAPAN FORESTにおいて、市が周辺環境を整備し、双方の協力による文化事業の実施や企業誘致、統一的な空間演出等を展開することで、みどり・文化・産業が調和したまちを目指すというものでございます。この冊子は、構想の概要と、方向性を整理したものでございます。

構想を進める上では、1ページ下段(2)推進方針の2行目にございませとおり、環境保全やユニバーサルデザイン等に配慮し、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、すべての人たちが楽しみ、憩い、学び、暮らせることを意識するものでございます。

次に2ページをお願いいたします。中段に図がございます。これは、構想に関する取組をスケジュールの視点から、段階的に示したもので、マイルストーンと呼んでいます。この図は、同時に構想の効果が作用するエリアの広がり方もイメージしたものでございます。(1)基盤整備期といたしまして、拠点施設となる(仮称)ところざわサクラタウンが完成する2019年までの期間を設定しております。この時期には、サクラタウンの建設はもちろんですが、周辺の交通環境整備、道路拡幅、交差点改良、駅からの動線などのインフラ整備、また、エリア内の駐車場確保などのアクセス環境の整備、松郷工業団地周辺の産業用地創出など、まさに構想を推進するための基盤を整える時期となります。

次に(2)成果創出期につきましてはところざわサクラタウン完成後から2025年までを目安にしております。この時期には、構想の推進による成果を生み出していくため、①環境分野、②文化・教育分野、③産業分

野、④観光分野などの面から、さまざまな取組を進めるものでございます。

具体的には、エリア内の一体的な空間創出、文化施設・教育機関等との連携、産業振興の取組、国内外へのクールジャパン発信によるブランド力向上などに取り組みます。4ページに移りまして(3)未来への飛翔期は、それ以降の時期ということになりますが、これまでの取組をさらに発展させ、継続的にその効果を生み出していくことを目指すものでございます。

次に5ページをお願いいたします。ここから8ページまでが、構想の本体となる項目、COOL JAPAN FOREST構想でございます。

構想は、4つの項目で構成しております。(1)みどり・文化・産業が調和した地域づくり、(2)所沢からクールジャパンを発信、(3)新しい地方創生を体現、(4)住んでみたい・訪れてみたいまち、でございます。

各項目について、順を追ってご説明してまいります。(1)みどり・文化・産業が調和した地域づくりでございますが、エリア内にみどり・文化・産業の要素を集約することで、職住近接のエリアを創出して、ワークライフバランスや、女性の社会進出などが促進されるなど、新たな地域づくりの考え方、あり方を示した項目です。①みどりは、自由に往来できる開放されたみどりの空間を配置し、みんなが楽しみ、気ままに過ごせる憩いの場を提供することに関するものです。

②文化は、ふるさと所沢の文化と、株式会社KADOKAWAが得意とするポップカルチャー等の文化を、ところざわサクラタウンから発信することに関するものです。③産業は、COOL JAPAN FOREST

のエリア内に、ITやコンテンツ産業など先端産業に特化したエリアを創出して、産業振興や雇用創出に繋げることに係る項目です。

次に6ページをお願いします。(2)所沢からクールジャパンを発信でございませが所沢市が有する農産物や伝統文化、観光スポットなどの地域資源や、株式会社KADOKAWAが得意とするアニメ・ゲーム等のポップカルチャーなどを、クールジャパンとして広く発信し、国内外からの観光客を積極的に呼び込むことに係る項目です。

続いて7ページ(3)新しい地方創生を体現でございませが、これは、民間企業の経営ノウハウと、行政の地域マネジメントとの効果的な相互作用を生み出し地域活性化を達成することに係る項目です。企業と行政が企画段階から共同で取り組む構想として、新たな地方創生のあり方を示していこうとするものです。

同じく7ページ下段(4)住んでみたい・訪れてみたいまちにつきましては、構想の取組を通じて、みどり・文化・産業が調和したまちとなった姿が、水とみどりがつくるネットワークを通じて、所沢市全体に広がり、住んでみたいから住み続けたいになり、訪れてみたいからまた訪れたいになることを目指していくことを示した項目でございませ。

次に、9ページ、4.背景・経緯となりますが、ここには市と株式会社KADOKAWAが構想を共同プロジェクトとして行うこととなった経緯や、本市施策における位置づけなどを記載しております。記載している内容につきましては、本年2月9日の地方創生に関する特別委員会でご説

明した内容と重なっており、すでに報道や公表してきた内容を整理したものでございますので、説明は省略させていただきます。

続いて13ページをお願いいたします。5. 構想エリアの項目として、拠点施設、ところざわサクラタウンと、重点推進エリア、COOL JAPAN FORESTの定義づけについて記載しております。COOL JAPAN FORESTと名づけた重点推進エリアにつきましては、サクラタウンを中心に半径500メートルの範囲としており、みどり・文化・産業が調和した地域づくりのための設備整備や地域ブランド向上に取り組む区域として、位置づけております。なお、このエリアの考え方については、都市計画等における区画とは異なり、範囲の線引きをする意図ではなく、また、本構想をもって何らかの規制等を掛けるものではございません。みどり・文化・産業が調和したまちにふさわしいまちづくりを進める範囲の目安のようなものと考えていただければと思います。

次に14ページをお願いいたします。ここから25ページまでが、具体的なアクションプランとなります。アクションプランは、次の3つに区分して記載しております。所沢市・株式会社KADOKAWAの共同による取組、所沢市、株式会社KADOKAWAの3区分です。では、順にご説明してまいります。まず14ページの所沢市・株式会社KADOKAWAの共同による取組でございますが、①地域のみどり・文化・産業を活かした魅力発信 では、COOL JAPAN FORESTのエリア内でのイベント実施、地元商店や地元企業等との連携等により地域の魅力を発信

することを掲げています。

②知の集積エリアの創出は、文化コンプレックスから海外へクールジャパンを発信することや、教育機関等との連携による取組などを通じて、地域のブランド向上や文化・教育振興を図る項目です。続いて、15ページになります。③特徴ある産業エリア創出による産業振興は、主に先端産業に特化した産業エリアを構築するもので、ところざわサクラタウンでのベンチャー育成、起業支援、所沢市による企業誘致活動などを連動させて産業振興に繋げようとするものです。④地産地消促進は、地元農産物のマルシェやPRイベント、製品開発等を通して、ブランドイメージの向上を図り、生産者支援、地産地消の促進を図るものです。16ページになります。⑤海外観光客の受入体制整備は、海外観光客が過ごしやすい環境や、好むコンテンツなどを考慮して、快適性を向上し、リピーターを生み出していく項目です。フリーWi-Fiエリアの設置、案内表示の工夫、ホテル等の誘致等を掲げています。ここには参考として、交付金を活用して実施した調査結果から抜粋したグラフを示していますが、中国・韓国・台湾といったアジアの中でも、国や地域によってそれぞれ宿泊先や利用する交通機関の好みに相違が見られますので、国別にターゲットを絞って、受入体制の検討を進めることも必要ではないかと考えているところです。

17ページ下段、⑥周辺環境の一体的な空間創出では、ところざわサクラタウンが、敷地全体を一般に開放されたスペースとして整備する見込みであるため、隣接する東川沿いや東所沢公園、東所沢駅からの動線などを

一体的なイメージで整備すること、四季を通じて、花やみどりを楽しむことができる環境づくりを進めようとするものです。18ページ、⑦COOL JAPAN FOREST構想の周知・啓発につきましては、構想の内容を周知することで、所沢市のブランドイメージを高め、構想実現への効果の加速を図ろうとするものです。共同で取り組む、7つの項目は、一部、基盤整備期から取り組むものを含めて、主に成果創出期に取り組むこととなります。

次に(2)所沢市のアクションプランをご説明します。所沢市が単独で進める内容といたしましては、主に周辺のインフラ整備に関わる内容となります。さきほど、ところざわサクラタウンと周辺を、共同の取組として一体的イメージで整備することを示しておりますが、河川や道路、公園に関する整備等は、所沢市の役割となります。①COOL JAPAN FOREST整備の項目につきましては、現時点では、19ページ中段の、県道24号線、いわゆる東京狭山線と、東川沿いの市道2-572号線との交差点改良、及び、その交差点から東川に沿って東側、ベルク角の交差点までの道路拡幅については、これまでの交通調査等を踏まえ、COOL JAPAN FORESTのエリア内への来訪者の車両等を誘導するうえで整備が必須となると判断し、掲載したものでございます。

20ページの②交通環境整備につきましては、ところざわサクラタウンだけでなく、エリア内への来訪の利便性を向上することで、観光客誘致の促進や、産業立地上の優位性が高まり企業誘致が促進されることが見込ま

れることから、バス路線誘致や、駐車場整備、鉄道利便性向上への働きかけなどを掲げています。③企業誘致につきましては、先ほどの交通環境整備だけでなく、COOL JAPAN FORESTのエリア内には土地利用転換推進エリアが、ちょうど収まるように位置していますので、土地利用転換による産業用地創出や、会社立ち上げの支援などによる企業誘致を図るものです。④旧所沢コンポストセンター跡地の活用につきましてはところざわサクラタウンの東川を挟んだ北側には、約8,000㎡の市有地であるコンポストセンター跡地がございますので、これを有効に活用していこうとする項目です。現時点で、活用方法を確定しているものではありませんが、地元農産物をPRするマルシェや、駐車場の設置、観光バス乗降や路線バスの転回所などを候補として検討を進めているところです。

21ページのアクションプランの最後の項目、(3)株式会社KADOKAWAの役割ですが、①ところざわサクラタウンの建設がございます。②運営体制の検討につきましては、施設自体は株式会社KADOKAWAの子会社である、株式会社ところざわサクラタウンが運営主体となりますが、地域の市民や団体、企業等との連携方法や、長期的なまちづくりに取り組む中での役割の検討などを行っていくこととなります。この内容については、併せて34、35ページの構想を支える仕組みの検討を参考にご覧いただければと思います。③施設建設に伴う外周整備については、周囲の自然環境に配慮した外周の整備に関する項目です。

22ページの④集客のための交通計画についてはところざわサクラタ

ウンへの多くの集客を図るために、来場手段や、受入体制等を検討し、周囲に負荷を与えない交通計画を立てることもKADOKAWAの役割となります。具体的には、来場者用の駐車場整備や、交通事業者との協議による交通利便性向上への働きかけなどが考えられます。

23ページの⑤所沢Cool Japan Forest構想5大方針の実現については、本年2月の文化創造会議のトークテーマにもなりましたが、ところざわサクラタウンでは、この構想に関わる5大方針を掲げており、その実現に努めることもKADOKAWAの役割となります。5つの項目は、①文化コンプレックス、②ジャパンパビリオン、③エンターテインメント、④ベンチャー育成・教育、⑤農産物、でございます。今後、ところざわサクラタウンの事業等の詳細が確定していく中で、それぞれの項目に関する内容も具体化されていく予定でございます。

26ページから33ページまでは、拠点施設であるところざわサクラタウンの説明に関する項目です。現時点では、建設予定地を含む区画が都市計画変更手続を行っている最中ですので、施設構成や規模、具体的な事業内容等が確定しておりません。特に28ページでございます、その他の主な機能に関する今後の検討トピックにつきましては、表題のとおり設置の検討を行っている段階であり、今後の状況によって変更される可能性がございますので、参考までに申し添えておきます。こうした施設の機能や、それぞれの規模につきましては、施設の建設計画等が明確になった時点で、株式会社KADOKAWAから正式にリリースされる予定でございます。

して、それに合わせて集客見込数の算定や、交通アクセスの具体的な対応等について示されるものと思われますので、これらの項目は、本日の説明では省略させていただきます。ページ少々飛びまして、34ページ、35ページをお願いいたします。ここでは構想を支える仕組みとして、連携プラットフォームやエリアマネジメント等に関する提案を掲載しております。

次に36ページ、37ページでございますが、ここでは経済波及効果を記載しております。ところざわサクラタウンの施設建設及びその後の事業運営によって生じる経済波及効果や市税収入への影響について掲載しております。これらの項目は、今後も引き続き、土地利用転換推進エリアにおける企業誘致による効果の算定などによって、内容的にも更新していくことになるかと思っておりますので、参考としてご覧いただければと思います。

続いて38ページをお願いいたします、ここでは構想を進めた先に、目指していく所沢市のまちの姿をイメージした文章を掲載しています。そして40ページの見開きでございますが、ここには構想を進めた先に描く、まちのイメージを掲載いたしました。みんなの想いで形づくる、一人ひとりすべての価値観が満たされる、そんなまちでありたい。これが、この構想を象徴する言葉でございます。構想についての説明につきましては、以上でございますが、冊子には資料編といたしまして、推進体制について掲載しておりますので、ご紹介いたします。

42ページの推進体制につきましては、2月9日の特別委員会でもご説

明しておりますが、新年度を迎えて、市の内部での検討体制を変更しておりますので、簡単にご説明いたします。なお、①ジェネラルプロデューサー、②アドバイザーボード、③推進会議TEAM STARTにつきましては、前回の特別委員会でご説明させていただきましたので、この場での説明は省かせていただきます。

43ページの相関図をご覧ください。本年4月1日付けで、設置要綱を制定及び施行し、所沢市TEAM START本部を設置いたしました。これは市長を本部長として、副市長、教育長、上下水道事業管理者を副本部長、各部長等が本部員となる組織で、構想推進に関する市の方向性を検討する組織となります。その内容を踏まえ、株式会社KADOKAWAとの推進会議TEAM STARTには、関係次長、及び課長が出席し、協議・検討を行うこととなります。また、実働部門として、4つの班を設置し、課題に応じた検討等を行う体制を整備しました。44ページをご覧ください。TEAM STARTの出席者及び、班の構成はここに掲載したとおりとなりますが、構成する所属等につきましては、検討事項の変化に合わせて、その都度見直し等を行っていきたいと考えております。資料編には、このほかにワークショップや、文化創造会議のアンケートでの意見や、ロゴマークのコンセプトなどもご紹介しております。ご覧いただければと存じます。

大変雑駁なご説明で恐縮でございますが、以上がCOOL JAPAN FOREST構想のご説明となります。長時間ありがとうございました。

【質 疑】

大石委員

市役所内部のいろいろな組織の中でこの構想を理解して実施していくのはこれからかと思うが、今後のスケジュールはどうなっているのか。また、産業の部分を大きく打ち出しているが独自の商品化には時間がかかるかと思う。所沢商工会議所や所沢市観光協会など、早めに地元の経済界に説明をすべきだと思うので、その点でもスケジュールがどうなっているのか確認したい。

市川経営企画
課主幹

市役所内部の主にソフト事業のスケジュール感ですが、今年度の中で具体的に検討していきます。また、商工会議所からは説明会を実施して欲しいと言われております。市がKADOKAWAとのつなぎ役になり、今年度中に動いてまいります。

大石委員

東所沢には商店街組織がないので、産業経済部が早めに地元と連携を図っていくべきではないか。

市川経営企画
課主幹

施設の完成までの期間が限られているため、スピード感をもってすすめてまいります。

城下委員

大きな構想が盛り込まれており、埼玉県角川市になっていくような感じ

を受けた。所沢市単独事業の部分について、財源がおよそどのぐらいなのか。また、文化創造会議で会員制施設ということが説明されていたが、広範囲の市民が利用できるということについては一定の制限がかかるのかと思うが、そのことについてどのような議論があるのか。広大な構想について、私たちには後追いで説明されている感じを受けている。まちづくりの視点として、情報公開と市民参加は原則だが、どう考えているのか。

市川経営企画
課主幹

財源に関しては具体的な金額はまだお示しできませんが、現状検討は進めております。想定される道路やそれ以外のインフラ整備については、まもなくお示しできるものと考えております。会員制施設については、山本マーク豪氏の発言されたコンティのことかと思いますが、サクラタウンの施設については会員制施設が含まれるということも考えられますが、有料と無料での利用部分についてはある程度区分けをしながら進めると伺っております。公共性の部分については市からもお願いをしてまいります。事前説明については、特別委員会での大まかな説明や冊子にも方向性を示しておりますが、内容については市民の皆様からご意見をいただきながら定めていき、情報も発信してまいります。

城下委員

財源に関して、もう少しで出てくるとのことだが、当初、総事業費30億円と言われていたが、単独事業にかかる部分は市としてどれくらいを考えているのか。環境整備として駐車場もできるようだが、現段階でどの

ぐらいを考えているのか。

市川経営企画
課主幹

300億円は昨年6月4日に角川会長が記者発表でご説明された金額かと思えます。施設建設費用に300億円を投じると説明されていたのではないかと記憶しております。これに構想全体を示すもの、周辺整備などは含まれていないものと捉えています。現時点で考えられるものは、交差点改良、道路整備などについては、市道を整備する際の建設費、それに準じたものになると考えております。例えばそのあとのコンポストセンターの建設費については、まだ活用の方法が定まっていませんので、金額算定は難しいのですが、活用の方法によって、これまでの施設整備等に投じられた金額に準じた金額になっていくものと考えております。

杉田委員

29ページの集客ターゲットについて、積算方法と、なぜこうなったのか説明を聞きたい。

市川経営企画
課主幹

集客量の算定につきましては、交付金活用で集客量調査を行っており、それに基づいて掲載しております。国内の類似施設の面積あたりの集客量などを根拠に算定しております。また、交通機関の状況に応じて周辺顧客、遠方顧客の比率を他の事例を参考に算定しております。集客量調査はその後の交通手段や来客頻度を算定し、必要な駐車場の台数などの算定に使用しております。

杉田委員

現実に近い数値になってきたと感じる。31ページの交通アクセスについても、説明をいただきたい。最寄り駅として西武線の駅が記載されているが、東武東上線についての検討はしているのか。例えば、みずほ台と東所沢の間でのバス路線ができてくると、南永井地区の方も利用できるようになってくるので、ぜひ検討してほしいと思っているのだが、検討しているのか。

市川経営企画
課主幹

大江戸線等の現在の交通環境等の変化を踏まえた検討は議論という形では行っております。ただし、大江戸線の方針が示される前に行っておりましたので、そこまでの反映はされていないものです。また、東京狭山線が南側に開通した場合の数字は踏まえて計算しております。東上線、三芳スマートICは集客として見込んでいますが、経路についてはそれほどの渋滞は生じないだろうと判断をしているところでございます。

平井委員

東所沢周辺が一変するような構想だということがわかった。住民の声があまり反映されていないような、住民がどう考えているのかがあまり載っていないので住民参加があまりないのだと感じた。ずいぶん前に、商工会議所とのトークがあったとき、それを知らなかった方もいらっしやった。地元との連携が足りないのではないか。成功例があれば事例を教えてください。構想をつくるまでの住民参加、ワークショップ以外でのアンケートな

どはあるのか。また、所沢市は周辺整備にはお金をかけると前々から言っているのだが、市税投入はどこまでするのか。財政の基準の整備は必要かと思うがそうしたものはあるのか。さらに、内部でどんな検討をしているのか。結果についてのプロセスがわからないので、向う側の会議録なども示していただきたい。

市川経営企画
課主幹

市民の皆様にご説明をさせていただく機会は、昨年から数回行っております。都市計画決定の経緯としての市民説明も4月24日に実施しておりますが、その前日に地元住民の方を対象にした説明会も実施しております。いろいろとご意見をいただきながら、構想を進めたいと考えております。地域連携に関することとしては、商店会、個人店の皆様からもご意見を頂けるような形で考えております。共同の取組での成功例ですが、企画の段階から進めていることについて先駆的な取組として国の交付金をお認めいただいているものですから、類似する施策がほかの市にはなかなかみられないものです。先日、ららぽーと富士見について、市の役割と企業のそれぞれの役割のもと進められたということがありましたが、全国的にも所沢市のこの取組は例のないものと捉えています。市と企業の役割としての市税投入のことですが、そこを整理するための役割として構想の冊子を公開させていただいたところですが、アクションプランとしてお示しし、あいまいな部分をなくしていこうと考えていますので、また皆様からのご意見をいただきながら、適宜修正してまいります。プロセスについては、会議

録のリアルタイムでの公開は難しいと感じておりますが、その結果をこの冊子にしております。冊子で明らかにした内容について批評などをいただき、それに基づき進めてまいります。

金額の基準については、今後も実施計画等をお示ししていく中で、議会へもお諮りいたしますので、個々の金額についてはその時にご判断いただければと考えております。

平井委員

日本で初めてのケースであれば一層慎重に、十分な情報提供も必要であると思うが、冊子の配布はどここの範囲まであるのか。財政の基準について、議会に諮ってからとのことだが、市としては周辺整備だけだと言えばそれはそれで基準となるものだと思う。どの辺までやるのかということがわからないので、要求されたことに対して、あれもこれもしていくということになるのではないかと懸念する。それについてどうなっているのか。また、外国人を呼び込むことについては、この構想のどこに示してあるのか。

市川経営企画
課主幹

冊子の範囲は、本体の配布については市議会、関係市町村のみに限られています。ただ、内容の情報の公開については、市のホームページに掲載しておりますので、全市、また市外にも広く周知しているものです。また、コピーによる配布はまちづくりセンターにも行っていきます。外国人の呼び込みについてはKADOKAWAとの取組の中で、フリーWi-Fiエリアの設置、地域担当コンシェルジュの育成などがあります。主にはサク

ラタウンからの発信ということになるので、KADOKAWA側が主に担うこととなります。周辺整備との線引きは具体的なアクションプランでお示ししているとおり、周辺整備については市で、施設の建設についてはKADOKAWAとして事務局で考えてきたものですが、明確でない部分については今後明確にしていきたいと思います。

城下委員

市と企業の役割について曖昧な部分をなくすということで今回情報提供をし、適宜修正するとの話だったが、どういう形で修正するのか。アドバイザリーボードに挙げ、合意がなされなければならないのか。また、先ほど、300億円は施設整備の金額ではないとのことだったが、周辺整備の費用については市税投入ということで実施計画ができる時に示されてくるものなのか。

市川経営企画
課主幹

構想の見直しの修正については、構想が所沢市単独のものではないため、TEAM STARTに諮り、KADOKAWAサイドと協議の上で、見直すこととなります。ところざわサクラタウン建設費は株式会社KADOKAWAが投じ、今後、市の予算がつく場合には、具体的な用途と将来的な金額を実施計画にてお示ししていきますので、その中で明らかになり、ご審議いただけるものと考えております。

城下委員

PPPについて、今後、所沢市の維持管理については導入すること

だが、敷地内の建物は株式会社KADOKAWAがつくるわけだと思
うが、このPPPはどこを指してのことか。

市川経営企画
課主幹

パブリックプライベートパートナーシップ、PPPについては、特に施
設管理に限定されるものではございませんので、この構想全体を運営して
いく上で企業と行政がパートナーを組んでいくという特徴を有している
という意味合いです。例えばところざわサクラタウンの施設に市費が投じ
られるといったようなことを意味するものではございません。

城下委員

運営費用を投入しないとのことだが、それでも運営についてPPPで進
めていくと説明されているので、運営に関わるのではないか。お金を市が
出さないが意見だけは言えるということか。

市川経営企画
課主幹

ところざわサクラタウンという施設の運営に限定してのお話かと思
うのですが、あくまでも施設の運営は株式会社ところざわサクラタウンが行
います。その事業内容に対して市が協力を要請するものについて、例えば
市の地域資源を取り扱った展示をしてくださいですとか、イベントを行っ
てくださいですとか、そういったものは、構想にかかわる事業の実施とし
て、市からお願いしていく形になるかと思えます。ですから、株式会社
ところざわサクラタウンと市とで会社運営を行うといったような意味合
いではございません。

松本委員

構想の冊子は今日がスタートですが、説明では平成31年11月には完成ということなのでかなり大車輪でやっていかなければならないと思う。東所沢和田三丁目自治会をはじめ、ごく近隣の自治会には建物が建つという意味での説明会は設けていただき、私も説明会に行った。今回の説明ではKADOKAWAができることによるその周辺のエリアということで、KADOKAWAを起爆として周辺を素晴らしいまちに変えていく、それによって住みたい、住み続けたいというイメージを出していくとのこと。今までの説明会では建物を建てるための近隣への説明だったのだが、500mエリアのまちづくりということでは、もっと広範囲に周知、啓発をし直してほしいと思う。具体的には、松郷や東川、いわゆる東川寄りの西側、東所沢駅前通りを境とした東所沢二丁目辺り、日比田の一部。大型トラックがあり、事業所がある辺りは、現在の景観を見る限りでは桜がきれいだというイメージでなく、素っ気ないイメージになっている。トラック所有者に駐車場を提供している地権者も含め、その辺りの地権者や流通業者に対して周知徹底をまずしていただき啓発して欲しい。また県道24号線からベルクまでの道路を拡幅して歩道を付けるという構想には大賛成ですが、むしろ、それを含めて東所沢公園の辺りから東所沢駅前通りの交差点、東端までの整備は非常に難しいと思うが、この辺りの整備。あそこに住んでいての実感として、所沢全体として考えるとと言っても東側はやはり東側であり、市民にも議員にも温度差がある。むしろ市内というよりは、この

エリアは清瀬市、新座市、富士見市、三芳町など、東武東上線沿線上の人たちを巻き込んだ構想を考えてもらいたい。所沢駅、東所沢駅の構想は非常に大事だが、他市の周辺エリアのことが入っていないのは非常に残念である。また、この冊子にエリアの説明はあるが、文章だけでなくもう少し細かい絵に落とし、並行して先ほど申し上げたような啓発も行ってほしいと思っているが、以上のことについてどう考えているか。

市川経営企画
課主幹

地元の東所沢和田三丁目だけでなく、広い範囲での周知につきまして、これまで隣接地域に説明を行ってまいりましたが、今後は、エリア内の地域へ広く周知を考えております、また、市域全体への周知もさらに充実したいと考えています。施設から東川沿いに東側の辺りについては、動線として検討をしてきたものでございますが、拡幅が難しく、県道24号線からの動線となるよう促すような流れをつくるのがよいという結論から、現在のような形でお示ししているものです。東川東側道路の整備については将来的にも難しいかと考えておりますので、入ってこないような促しをしていきたいと思っています。市民の温度差について、近隣他市、特に清瀬市からの路線バスですとか、東武東上線駅からのバスといった公共交通等の充実は今後必要だという意見が出ておりますので、公共交通事業者に対して働きかけを行っていきたいと考えています。絵に落とすことについては、後づけになってしまい大変恐縮ですが、構想策定に大変時間がかかってしまいましたが、具体的に目で見えてわかるようなものを整えて

いきたいと考えています。

島田委員

非常に多くの人の誘致を考えているが、これだけ大きな施設を考えると、避難所としてのスペースも検討しているかと思う。直接この構想とは関わらないことかもしれないが、避難所について考えていることがあれば示してほしい。

市川経営企画
課主幹

避難所については、ところざわサクラタウンの施設をどのように利用していくかというところになるので、今後、またお話をさせていただくようになるかと思っておりますが、文化創造会議において角川会長が、展示場をつくり避難所として活用できるようにしたいと発言をなさっていたように記憶しています。地域づくり協議会へのそういった貢献についても前向きに検討しております。

島田委員

外国人の受け入れ態勢としてフリーWi-Fi設置の話があったが、総務省で観光と防災の観点でのフリーWi-Fiの補助金が余っているという話を本会議でさせてもらったが、今回のケースは株式会社KADOKAWAが設置するのかもしれないが、この補助金やその他、活用できる補助金について何か調べているか。

市川経営企画

ここでのフリーWi-Fiの設置は、観光という視点での設置です。防

課主幹

災の観点からとなると危機管理の視点になるかと思っております。しかし、設置に当たっては、防災の視点も踏まえて検討していく必要があると考えています。ところざわサクラタウンだけが防災の観点で設置するのではなく、所沢市内全域での検討が必要なものではないかと考えています。補助金の活用に関しては、これまで地方創生の補助金を活用して進めてきているところですが、新型の交付金についても検討しています、ただし、この構想自体が国の交付金を活用して進めているものであるため、重複支給となってしまう部分もあり、難しいのですが、国と調整して利用できる場所では利用していきたいと考えています。ひとつには、コンポストセンターの活用については、市有地を活用するための調査業務に対する補助金などを活用できないか検討しているところです。

粕谷委員

TEAM STARTの運営体制だが、KADOKAWAサイドのメンバーを知りたい。

市川経営企画

KADOKAWAサイドとして、秘書室長、ところざわサクラタウンの建設に関わる所沢開発センター部長、株式会社ところざわサクラタウン社長、ソフト事業面でこれまで交付金を活用した事業などに携わっているライツ営業部長になります。

課主幹

粕谷委員

紹介していただいたメンバーは不定期で参加するということか。実働部

門に株式会社KADOKAWAの関係者が入ってくることはないのか。

市川経営企画
課主幹

ただ今申しあげました秘書室、開発本部、ライツ営業部については全ての会議に出席されます。それ以外のメンバーで入れ替えがある場合があります。所管の部分の事務職が入れ替わっているものと捉えています。実働部門についてはあくまでも庁内の担当者であり、これまで、TEAM STARTの分科会という形で、担当者レベルでの市と株式会社KADOKAWAの協議を行っており、TEAM STARTで協議する内容の調整等を行っています。これについては今後も継続していくものです。

杉田委員

都市計画変更の概要について、地元説明会もあったかと思うが、どのような変更だったのか。また、説明会の時の様子はどうだったのか。

市川経営企画
課主幹

都市計画変更の概要ですが、旧所沢浄化センター跡地と隣のベルク、また、衛生センターと東部クリーンセンターの収集事務所、この道で囲まれた区画についての容積率を緩和することと、防火地域に指定するという内容でした。具体的には株式会社KADOKAWAの敷地がほとんどになるのですが、そこをA地区と定め、その容積率の緩和等になります。特に、B地区、C地区に関して大きな変更は行われません。A地区の中には公共的な広場の設置やいわゆる緑道、歩道上の空地ですが、それを設けて南北の通行を容易にできるような制限をかけています。また、オープンスペー

スを確保するといったことも示されました。地元の説明会での感触ですが、株式会社KADOKAWAでの設置で高圧線設置に関する質問が多かったかと思います。市民全体の説明会では、さまざまな質問がありましたが、建物自体を反対するといことはなく、整備を行っていく中で住民が協力しているがKADOKAWAからの公共的な提供はされないのかという質問があり、都市計画の中で公共貢献をしていくという回答をしました。全体として、構想に対する細かな部分の確認が多かったかと思います。

杉田委員

高圧線の関係について、どのぐらいの規模なのか等、イメージを教えてください。

市川経営企画
課主幹

高圧線については、株式会社KADOKAWAから東京電力に申し入れがあったものと思いますが、その際に、東京電力側から必要になるかもしれない旨の返答があったようでございます。こちらからも東京電力への問い合わせを何度か行っておりますが、現状としては、未確定とのことです。市民から直接問い合わせもいただいておりますので、私共も直接東京電力へ伺いお話を聞いてきているところです。計画が確定された時点で情報提供をしたいとのことです。市民が電磁波等についても不安を感じていらっしゃるので、不安の解消に努めていただきたいということも申し上げてきたところでございます。

杉田委員

容積率が200%から300%に変わった場合、その資産価値が上が

り、周辺も上がるのではないかとと思われるが、どのように考えているのか。
また、固定資産税について、税金部分も上がると思うが、免除等についてはどうなっているか。

市川経営企画
課主幹 土地価値の上昇に伴う固定資産税の増額による減免については、所沢市企業立地支援条例に基づいて、相当する金額を交付するという形になりますが、3年間は結果的に資産税分が減免されることと同義になります。

杉田委員 3年間は高くなるかと思うが、概算やイメージとしてはどうか。

市川経営企画
課主幹 現状の資産価値から算定をした場合には、固定資産税は約2億円になると見込んでいます。3年間、税相当分が、市税収入から減額となりますが、企業の誘致を図っていくためということで、長い目で見れば所沢市の市税収入となっていくものであり、所沢市の発展につながるものと考えています。

杉田委員 容積率が上がったら固定資産税がもっと上がるのではないかと。

市川経営企画
課主幹 今お示ししたのは、土地と建物が建つという意味での金額になります。最新鋭の機械等が導入されると償却資産税がどの程度になるのかということもあり、今後変わってくるものであるため、ある程度確定していく中

で、算定できると思います。

大石委員

都市計画の変更に関連して、C地区の施設利用はないのか。コンポストセンター跡地の活用について、売却、賃借は、駐車場をつくるにしてもだが、すべて市が行う方向で考えているのか。また、ある日突然、中国や台湾からの観光客が押し寄せるといった考えかと思うが、観光コンシェルジュをつくるというイメージが書かれているが、地域住民の住環境に対して影響を及ぼしてくることはあることなので、地域住民のおもてなしの心得について、早目に対応していかないと、1年ぐらいで突然中国語での対応はできないわけなので、3年ぐらいかけないとかと思うが、その点について手法を伺いたい。

市川経営企画
課主幹

C地区の衛生センター、東部クリーンセンター収集事務所については現在稼働中のものもあるので現在の機能を確保していく、用途の制限としては一般廃棄物処理施設等の位置を指定していくところでございますので、特に、構想の一部として活用するという部分では考えは現在のところございません。コンポストセンター跡地の活用については、現状市有地のまま活用していく考えです。地下に滞水池が設置されていることから、そのため市の土地であり続ける必要があるためでございます。運営の仕方につきましては、市の直営なのか、PFI方式で運営を任せるのか検討中です。方向性が見えた時に明らかにしてまいります。観光コンシェルジュに関し

ては、観光客の流入は違う文化を持っている方が入ってくるということになりますので、株式会社KADOKAWAでも慎重に進めていくと話しておりましたので、できるだけ早いうちにお示しできればと考えております。

吉村委員

2ページのマイルストーンの(1)のところだが、2019年度までにとろざわサクラタウン完成と周辺整備と印刷施設構築について、2020年の東京オリンピックに間に合うように本体の建設や周辺整備していくということで、期間としては4年弱になると思うが、なおかつ平時の観光客の誘致もさることながら、東京オリンピックという大きなイベントが完成した直後にあって、おそらくその時の日本に来る観光客は相当な人数になると思うが、その方たちを所沢に誘致したいという考え方があると思う。周辺整備が所沢市の大きな1つの役割になっていると思うが、これはたして4年弱の間にどこまでできるのか心配しているのだが、東京オリンピックで観光客が一気に来た時に、いろんな課題があるので、初めて多くの観光客が来る最大のチャンスにどこまで完成度を高めて整えていけるのかというのを今後の工程表の中に示していただきたい。その工程表なり実施計画がいつごろできるのか、KADOKAWA本体の工事がいつから始まるのか。東京オリンピックで海外のいろんな国の人たちが来るので、東京オリンピック期間、または前後に渡っての期間の考え方について、TEAM STARTでは視野に入れて考えていくものなのかをお示し

いただきたい。

先程の東京狭山線からベルクまでの拡幅についても、用地買収が必要な気がしますが、実際にいつごろ完成させるつもりなのか、本体が出来上がるまでに並行してやっていくのか、本格的な工事が始まるまでに整備をしたいと思っているのか、示してほしい。

市川経営企画
課主幹

工程表は工事前の測量などについて逆算しながら担当レベルで作成しているところです。用地買収をからめてところざわサクラタウン完成に合わせて周辺のインフラ整備が完成していることを前提に進めています。もしかすると今年度中に補正をお願いすることもあり得るかもしれませんが、そのような時期には明らかになってくるかと思います。また、サクラタウン工事については、平成29年度当初ぐらいから工事が始まるのではないかと伺っております。また、ところざわサクラタウンとの往復のみで東京に帰ってしまうのではなく市内に留まっていただくようにすることについては、市内観光拠点との連動であるとか、バス路線の設定とか主だったところで協議していくことになるものと考えています。現在の動きとしては、ツアー会社にセットで所沢市内観光を含めて「所沢を巡る」というアイデアが出てきております。

吉村委員

ところざわサクラタウンに来て市内巡りで終わるのではなく、東京オリンピック・パラリンピックの前後は大勢の外国観光客が所沢市にも来る

わけだが、それに合わせた所沢市のイベントをTEAM STARTで考えていくのか。

市川経営企画
課主幹

オープニングイベントの中では、所沢市の良さを売り込む機会になりますので、ところざわサクラタウンのリピーターを作るということだけではなく、狭山茶や狭山湖の良さを海外の人に知ってもらい、次にまた所沢に来ていただく地盤をつくるようなイベントを合わせて開催していきたいと考えております。

城下委員

先ほどの質疑の中で新型交付金が今年度も予定されていることの答弁があつたが、予定しているのか。道路整備については今年度中に補正があり得るとのことだったが。また、ライツ営業部長が補助金担当ということだが、この方の役割は、国の補助金メニューを所沢市ではどうなのかと検討することか。

市川経営企画
課主幹

今年度予定されている新型交付金については、これまでと同じ要件になるかどうかまだ明らかにされておられませんので、同一要件であれば、そういったところも活用していくことは考えておりますが、道路整備の関係について活用するかは、今の段階ではお答えしかねます。これまでの地方創生交付金のハード事業に関しては、交付金活用にはなりません。

次に、ライツ営業部の交付金活用に対しての役割についてですが、これ

までの構想の策定、調査の実施ということでございましたので、必要となる調査の内容であるとか、構想の中身をどのように組み上げていくかといったところを主に協議させていただいてきたところです。

亀山委員

東所沢公園の整備について、具体的にどう入口に近いのか。一体的というがその辺をどのように考えているのか。東所沢駅に関しても、J Rとの交渉課題についてお聞きしたい。防犯の観点から、東所沢周辺は意外と犯罪が多いので、そういったところを含めてのまちづくりを検討しているのか伺いたい。

市川経営企画
課主幹

東所沢公園の整備についてですが、具体的な改良は決まっておりませんが、ところざわサクラタウンの敷地の中の公共的スペースについては四季を通じて草木を楽しめるような地元の植生を活かしたような形で整備をするとしておりますので、東所沢公園においても、そこと一体になるような形で、どちらかという憩いの場として整備になっていくものかと考えております。例えば一部には、KADOKAWAのコンテンツのイメージがわくようなものを置くといったこともあるかと思えます。J Rとの課題ですが、東所沢駅を使って鉄道でみえる方が増えるものと見込まれますので、今後J Rとの話し合いの場を設け、多くの集客に対応できるような改良をお願いしてくることになろうかと思っています。また、防犯に関しては、地域の防犯もありますが、海外の文化が違う方が入ってくるというこ

ともありますので、日本人にとっては犯罪に当たると思われる行為等についてもそうした概念がないということも考えられますので、海外の対応については、株式会社KADOKAWAが香港や台湾にも会社をお持ちですので、注意する点についてお話を伺いながら対応できるように検討していきます。

大石委員

この間の文化創造会議の中において、角川歴彦会長が、所沢市議会議員に期待することは、東京オリンピックとパラリンピックにおいて、文化プログラムを何とか所沢でやりましょうということで、市民の皆様である市議会議員に声掛けがあった。これに対して、今どのように文化プログラムを実施しようかと検討、相談をされているのか。

市川経営企画
課主幹

おそらく文化オリンピックと言われている国が進めようとしているものに関してだと思いますが、オリンピック自体を開催する主体にはなりません、そこに関してはソフト連携対応班の中でどういった参加の仕方ができるかというところで進めていく予定です。まだ現在のところでは、こういう形で参加しますというようなところの答えまではたどり着いていない状況です。

大石委員

何か会長がイメージを持たれていてこちらに働きかけたとか、所沢市でこういう文化プログラムを実施したいというような声掛けがあったとか

	<p>いうわけではないのか。</p>
市川経営企画 課主幹	<p>現在のところは、まだ具体的にこういうイベントでとか、こういう事業でとかいうところの提案は頂いてはおりません。ただ、そういった文化オリンピックという国をあげての事業が行われるのであれば、クールジャパンの発信拠点として、機能していくサクラタウンをやっていくこの構想において、参加していくべきだろうというお話でございます。</p>
大石委員	<p>文化創造会議であそこまで市議会議員に期待されるということは、相当な予算づけをしないと文化プログラムもできないのではないかと感じたのだが、そうした話はないのか。</p>
市川経営企画 課主幹	<p>現状ではそうした話はなく、今月中にはまたTEAM STARTが開催される予定ですので、提案があるのではないかと思います。</p>
松本委員	<p>先ほど東京電力の話が出ていたが、構想をつくるに当たってそういう議論があったのか。地元ではかなり神経質になっている。駅前通りの拡幅の件だが、かねて無電柱化の話がある議員からされていたが、これについてはどうか。</p>
市川経営企画	<p>無電柱化は、18ページにございます電線地中化の記載に当たります</p>

課主幹

が、これについては市が予算をつけるだけでできることではなく、電力会社との調整が必要なことからこの程度の表現になっています。将来的には景観等も含めて無電柱化もひとつの方法であると考えています。

【質疑終結】

休 憩（午前11時54分）

（経営企画部退室）

（休憩中に協議会を開催）

再 開（午後0時2分）

（2）今後の活動方針について

中村委員長

今後の活動内容について、次回、委員長からお示しするとともに、委員からの提案をお受けし、決めていくこととする。

また、補正予算等で地方創生に関する議案が出た場合、特別委員会に委員会付託してもらえないか、議会運営委員会に申し入れを行うこととしてよろしいか。

（委員了承）

なお、特別委員会と一般質問のあり方については、良識に任せることとなっているため、ご配慮いただくよう、お願いします。

（委員了承）

委員長

(3) 次回の日程について

次回の委員会は、6月6日に協議会を持つこととし、COOL JAPAN FOREST構想については継続して調査していくということでよろしいか。

(委員了承)

散 会 (午後0時4分)